
法令資料ファイルと 研修用資料を整備しよう

薬袋 秀樹

1. 図書館職員は基本的な資料を 読んでいるか

仕事柄、各地の公共図書館で職員研修の講師を務めることが多い。新任職員研修の講師を依頼されることもある。この場合に気になることは、受講者である新任の事務職の人々が、異動後数か月または1年数か月後であるにもかかわらず、図書館法や「公立図書館の設置及び運営に関する基準」のような法令・基準、『公立図書館の任務と目標』や『市民の図書館』などの基本的なテキストを読んでいないことである。この点を確認するために、受講者に読んでいるかどうか質問することになっている。ある地域の研修ではすべての受講者が読んだことがないと答えた。それでは救われないので、次

に、これらの資料が机の上にあるかどうかをたずねる。読んだことがなくても、机の上にあり必要な場合にすぐ読める状態になっていれば学習は可能である。ところが、これに対しても、ほとんどの職員が机の上にはないと答える。

これらの新任職員は事務職である。事務職であれば、自分の仕事の根拠法令や国の基準を読んでいない、法令資料を手元に置いていないということはあるはずである。これらの人々は、ほかの行政事務の職場にいれば法令や基準をしっかりと読んでいるはずである。このようなことが起きるのは、図書館という職場の風土のためである。それは長年にわたって形成された習慣である。

他方、事務職に図書館について理解してもらうためには、基本的なテキストを読んでもらうことが最も手軽な方法である。それには、誰でもすぐ読めるように、テキストを用意し配布することが必要である。しかし、そのような配慮をする例はきわめて少ないようである。

これらの図書館にも、少数であれ司書がいるはずであるし、管理職もいるはずである。それなのに、こうした状態がしばしば見られるのはなぜだろうか。図書館職場全体に、こうした資料を各人の手元に置き、しっかりと読むように努めるという発想と習慣が見られないのではないだろうか。司書の中には、このような資料は自分でそろえることができるので、自分でそろえるべきであるという意見があるかもしれない。しかし、それは事務職には困難なことであるし、司書なら実行しているという保障もないため、職場全体で配慮すべきである。

2. 基本的な資料を整備しよう

具体的には、次のような取り組みが必要である。

(1) 法令資料ファイルの作成

図書館法, 社会教育法, 地方自治法, 著作権法等の関連法令, 図書館法施行規則や公立図書館の設置及び運営に関する基準, 生涯学習審議会の答申や報告と関連する資料のコピーを収めた法令ファイルを作成する。このようなファイルを全職員が机の上に置き, いつでも利用できるようにする。近年, 生涯学習審議会は相当数の答申や報告を出しており, これらは必読資料である。

(2) 研修用資料の収集と配布

『公立図書館の任務と目標』『市民の図書館』その他の基本的なテキスト類は, 図書館で図書館資料あるい

は研修用資料として職員の人数分購入し, 全職員に配布して, 全職員が机の上に置き, いつでも利用できるようにする。

この2種類の資料があれば, 公立図書館の運営に必要な基本的な知識をいつでも参照することができる。研修を進めるには, このような基礎的な条件整備が必要である。必要不可欠な知識をわかりやすく簡単にまとめた資料はきわめて少ないため, 初学者に理解しやすい資料を探索し精選し, 比較評価することが必要である。

3. 事務職と協力しよう

なぜ, このような当たり前の努力が行われていないのだろうか。それは, 図書館界の指導者が, 司書職制度の確立を主張することに追われて, 多くの図書館で事務職が司書と一緒に仕事をしているという現実と正面から取り組むことを避けてきたからではないだろうか。図書館界では繰り返し研修の必要性が主張されている。しかし, 研修をより効果的なものとするためにも, その前に各職場でこのような地道な努力が必要なのである。

(みない ひでき: 図書館情報大学)
[NDC9:013.1 BSH:図書館員]
